

☆わたしの意見

社会福祉と

人々の善意

関 外余男
△兵庫県社会福祉協議会会长



私は、社会福祉の仕事に携つて相当長くなります。社会福祉は、人々の心をつなぐ仕事だと思っていて。元来、人の心は、正しく美しい。あえて、古く中国で唱えられた性善説を探らなくとも、私はそう信じます。ただ、人々は、現実には随分矛盾も多く、理想とは隔つた社会の環境や制度の中で、懸命に生きて行かなければならぬのであり、また、人は所詮、凡夫であるから、時には、天使の声よりは、悪魔の囁きに耳を傾けたくなる時もあるのですからいつも善意の出し放しとというわけには行かぬでしょう。

しかし、この善意が人々の心の根底になければ、家庭における家族間の生活は成り立たないし、近隣、社会の共同生活も成り立たないはずであります。殊に、人々の福祉を高める社会福祉事業をささえるものは、この人々の善意であると思ひます。社会福祉事業推進の基盤は、この人々の善意をいかに高揚するかにかかっています。社会福祉事業に向けられる善意を行動にあらわす場合には、いわゆるボランティア活動という形になる場合が多いと思ひます。反対給付を求めるところなく、富める者はその財を—才能ある者はその力を、心の豊かな者はその心を充分に出し合うこと、そこからボランティア活動が生れるのです。

社会福祉協議会の目的とするところは、住民主体の地区組織活動（コミュニティーオーガニゼーション）であり、言をかえれば、住民福祉の明るい町づくり運動であります。町づくり運動とボランティア活動とは切りはなして考へるわけには行きません。

社会福祉、社会保障を進めるることは、福祉国家として最も大切な仕事であることは当然ですが、これを強調するあまりその一切をあげて国家の責任であるとする一部の論議がありますが私共は、これには同調するわけには行きません。社会福祉事業の根底は、民間の事業であります。人々の善意と愛情に支えられる福祉の町づくり運動であります。

Morozoff

カフェ・ド・ベッコ(大丸店)



モロゾフセンター街店



くつろぎと、舌つづみの
ひとときを。

モロゾフのティー・サロン。
チョコレート ケーキ プリン
バロア。みんな、モロゾフのオリジ
ナル・メニュー。香り高いコーヒー
紅茶をどうぞ。こころ高鳴るインテ
リア、ゆきどどいたレイアウトなど
しゃれたファーリングのお店です。
お友だちとごいっしょに、ご家族づ
れでにぎやかにおこしください。

随想三題



ありし日の拾丸さんと春代さん

拾丸さんの瘤(こぶ)

織田正吉
〔放送作家〕



日本の船の名前には、かならず△丸▽がつく。だから外国の船員は日本船を△マルシップ▽と呼ぶ。そうだ。むかしの漫才師の名前にも丸のつくのが多いのは、神戸に入港する船をまねただという説がある。おそらくこじつけだろう。

詮策はともかく、神戸は漫才のふかい土地である。砂川拾丸が擡頭したのも、横山エンタツが新しい型の漫才で人気を得たのも

湊川新開地だった。今年になってから、そのエンタツさん、拾丸さんが相ついでなくなつた。しゃべくり漫才と古典万歳、それぞれの巨きな存在であつた。

拾丸さんに会つたのは、この夏神戸松竹座の楽屋だった。読売テレビに有川さんといふ若いのに古典芸能が好きという奇特なディレクターがあり、二人で仕事の打合せにたずねた。その日は出番ではなく、拾丸さんは紺色のレースの開襟シャツを着ていた。

「漫才のはじまりは三河ですなあ。むかしは仏教というものが△（この△）といふところで尻上りになるのが砂川師匠のくせだつた）すたれたので、説教におもしろい話をとりいれた。そんなことから出とりますなあ」テレビで砂丸さんに何をやつてもらうか、持

ちネタを洗いに来たので、そんな話を聞きにきたのではない。が、新聞記者などがしょっちゅうそれを聞くのか、口慣れた様子でまたしても「漫才のはじまりは……」となる。われわれがどの何者かもまったく理解できないらしかつた。そばにいた合方の春代さんが「何をいふとんのかいな、このおつさんは」と何度もいつた。完全にほけている。

「（テレビに出てもらつて）大丈夫でしょうか」有川ディレクターは心配そうだった。「大丈夫です」と私は無責任に断言した。例によつて張り扇できるトリネタの△舞込み▽をやつてもらつたが、ステージに立つと絶対に間をはずさないのだから、文字どおり叩きこんだ芸といふものは大変なものである。

舞台ではよく神戸の地名が出てきた。「目くらの乞食がノミを取つてゐるちゅう橋があつたなあ」「そんな橋あつたかいな」「みんな跳ばし（湊橋）」

それから――

「うちの家は九間（ここのはま）あります」「嘘つき、四畳半一ト間やないか」

「裏に山（八間）がある」というのは住んでいた長田区丸山のこと

左耳のうしろに直径二センチく

らいの瘤があつた。ドルショックに悩む水田藏相の天庭にあるのと同じやつである。粉瘤（ふんりゆう）といふのだが、私も十何年前、ひざに出来たので医者に取つてもらつたことがある。

ひさの出たおでこ、石垣の螢みたいにいつも奥で光つてゐるかなつぽまなこ、チョビヒゲ、そして、やせて少し猫背の身体。みんなの飄々とした芸風をささえる大切な肉体の小道具であつた。だが、耳の瘤だけは目ざわりでかんたんな手術だから早く取つたらいのにといつも思つてゐたが、もうその必要もなくなつた。

赤いほつべ

富岡 敬次郎

（サンTVKKディレクター）



『赤いほつべ』——昨年の七月から、サンTVで放送されている児童教育番組である。視聴者は児童をもつてゐる母親が主体になつてゐるようだ。内容は児童の発育、発達していく姿を、児童をとりまく環境を素直にみつめようといったもので、児童のための技法を説いてゐるわけではない。ともすれば、うつか

り見過ごしがちな『児童の世界』を素直に、ていねいにみつめ、紹介しようということである。

『児童の世界』と簡単にいっておけているが、その世界は複雑、多岐なものである。とても、文字、ことばで表現できるものとは思えない。こうした世界をより忠実に表現できる、一番すぐれた手段はいまのところ、カメラでフィルムにおさめ、それらを再現することだ。

テレビ番組を制作する場合、ニュース番組など客観性の必要な場合をのぞいて、ある程度の演出にとづいて、登場人物の演技を引きだそうとする。そして場面構成をしてゆく。ところが、こどもを対象にして撮影する場合、演出はまったく効果を生みださない。（『赤いほつべ』はそうした演出を必要とする番組ではない。）こどもは制作者がのぞむような演技はまったく演じてくれないものだ。

そこでテーマにそつた内容のものをカメラでおさめるためには、こどもが本当に行動をおこすまで、辛抱強く待つて撮影するしかない。一時間でも二時間でも、いや半日でも一日でも待つてゐる。氣の長い話ではある。しかし、のんびり構えているわけではない。一刻でも早く行動をおこしてくれることを祈るような気持で待つてゐる。

いる。おかげでこのごろでは、待つことにそれほどの苦痛はない。昨年の第一回目の放送のときの撮影で、出産シーンの一部を取材したとき産院へ二週間近く、毎日出勤した。その忍耐力にわれながら驚いたものだ。

いろいろな場所で、いろいろな子どもたちを取材していると、いろいろな性格の持主のこどもと出合う。『十人十色』という諺があるが、まさにそのとおり。家庭環境も教育方法もそれぞれ違つてゐるので、いろいろな性格の持主のこどもが生まれてくるのである。このことは喜ばしいことだと思う。地球上に何億の数の人間が存在しているのか、はつきりしたことは知らないが、まったく同じ人間がふたりといない、この事実を実感として知ることができる。性格の違つた人間同志がお互を尊重しあつて、たすけ合つて生きてゆくことはなによりもましてすばらしいことに違ひない。

こどもを取材していくも思うことは個性的な人間に育つてほしいと思つことは個性のある人間の育つ環境づくりをしてほしいといふことである。わたしたち『赤いほつべ』にとりくんでいる仲間はいつも、そう考えながら制作にいそしんでいる。

旅と唄と

作家 杜山

作家



近著「日本の街道」取材旅行の途次出雲国月山富田城での新宮党館跡にて、筆者。

出雲の安来から旧
安来節と厄子の城

分の好きなように歌えばよい、と、いった。それでも、このすさまじい文句の子守唄をきいて育つた五木村の子どもたちの人生観とは、一体どのようなものであったのだろう。私は人吉から八岳へ越えに北薩摩の方へ下りながら、おばあちゃんの節回わしを真似てみたが、歌えば歌うほど離れて行き、栗野岳の麓をたどる時分にはすっかり忘れてしまっていた。

おばこ節と破れ風呂

なはるとよろしうます」としぶいのどをきかせてくれた。さっきの番頭の節とは大変ちがつていた。

九州の球磨川の上流に人吉といふ町がある。二万二千石相良氏旧領地で、山紫水明の地といわれたが現代は觀光客でごったがえしている。人吉城趾から少し奥に入つた温泉宿に泊まり、宿のおばあちゃんから昔ふうの五木の子守唄を教えてもらった。五木村は球磨川の支流五木川の上流にある。

けろ

通る人ごち花あげる
花は何の花つんつん椿

水は天からもらひ水

コードで聞いた節とはまるで

せがちおれなせんじに甚の悪し

にはさすがにあきれはて、まあ自

江に宿泊した。

早速、昔ふうな安来節が習いたいと宿の番頭にいうと、上手ではありませんがといって自分で歌つてくれた。これがまたとても難い。私が真似で歌うと「できませんよ」と手を叩く。おべんちゃらいいなさんな。いえいえ、ようはまつりますわな。おだてられて一杯のんで、あとで風呂の中で歌つていたら風呂焚きのおっさんが、「そこは、こないなふうに歌い

館ある。美しい声たががヒーパの力もよく飲む。飲んで歌つて、歌つて飲んで「お客様よく覚えなさつたね」と、最後にあいそをいつて退つた。△ほんまに覚えられたかな▽地下の温泉場に入つて「ア、オバコデ、オバコデ」とやつていると、一陣の潮風が吹きこんで来て湯気を払つた。よく見ると海になつて、海と風呂場とが「いけいけ」になつっていた。

□ある集いその足あと

人形劇団「プツテ」



尼崎の児童図書室で

す。ご覧になりませんか？

公演は春と秋が多く、秋は文化のシーズンだ、等といながらでかけますので、サークル員の家族の方々はアキレでおられると思ひます。大体、阪神間を中心に兵庫県全域の、養護施設、小学校、子供会、老人ホーム等で公演をします。七年前から、夏季には、全員が揃って、二泊三日或は、三泊四日位の休暇をとつて、僻地といわれるところに行きます。子供達が十七・八名というような過疎地帯です。三年後には一年生がいないと、きました。分校の教室で、全員、ごろ寝をします。窓から星を眺めながら寝るというような風流なことは、都会ではとても出来ません。お星さまとお話をすると、いう人もいます。この公演が終りますと、子供達から感想文がたくさんきますので、私達は大騒ぎをしながら読みます。私達の機関誌「羽ばたき」にこの感想文を載せて、子供達に送ります。

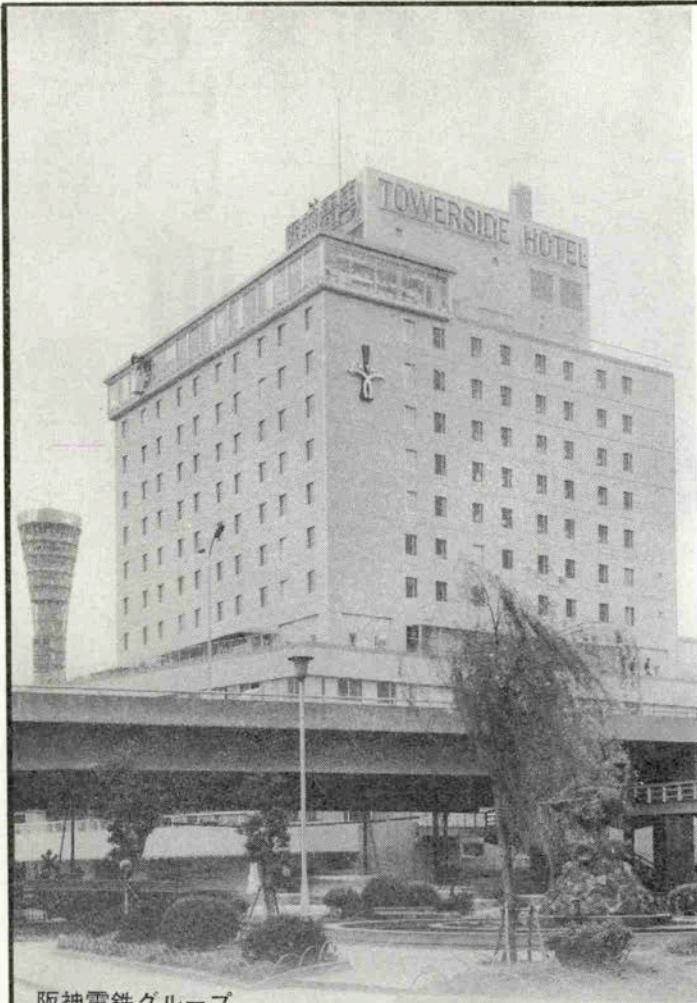
劇の台本は、私達で考えて作ります。舞台の人形は、油粘土で形や顔を作り、みんなで、アーデモナイコーデモナイ、と、ひねります。それをモデルにして、紙粘土や、発泡スチロールや布等で、縫いぐるみ人形やいろいろな人形を作ります。不思議なことは作つた人の顔に、そつくりの人

形が出来ます。どういうことでしょか？登場人形が狐、狸、リス等のような小動物の場合には、動物園で、その生態を見てそれを基にして、劇になる動きを考えます。櫻の前でいろいろな形をしていると、子供達が「あいつ、アホとチャウカ？」などといいます。

年頃の若い人達が集っていますので、劇団員間の結婚があります。また、サークル以外の人との結婚もあります。ご当人には、おめでたいのですが、残った者は、とても淋しいことです。でも、また、いろいろな人達が参加してくれますので、いつものように、蜂の巣をつづいたよくならしい練習を開始します。人形とたわむれていては、劇になりません。演出を担当した者は、恨まれようが、どうしようが、びしひし。出演する者は、フウフウいながらシゴカレています。

阪神間には学生さんのクラブ活動による人形劇サークルはたくさんあります。私達のような地域のサークルも三つ、四つあり、いつも年配の方も活発に活動しています。だれにでも、どこでも、いつでも出来る人形劇です。もつともっと人形劇にたずさわる人達が増えればいいなー、と思いま

金田 一男（人形劇団「プツテ」代表者）
私達人形劇団「プツテ」は、青空子供会を母体に、発足当時の精神を引きつづつ、私達の人間形成の場としたサークル活動として、現在に至っていますが、或る時期には、メンバーが、四・五名になつたこともあります。が、それでも、公演活動を続けました。現在は、公務員、会社員、学生等十八名で構成していますが、當時、活動している者は、約十三名です。仕事を持つている者が多いので、毎週金曜日六時からの練習には、なかなか全員が揃いません。練習は、芦屋市教育委員会のご好意で青少年センター（芦屋市西山町）の一室で練習していま



阪神電鉄グループ

神戸タワーサイトホテル

5階 レストラン
“エメラルド”

ぐ～んとスペースがひろがり
海と山の眺めが一層すばらし
くなりました

新しくステーキ
コーナーも誕生

スペシャル
プランクドステーキ(お二人前)…¥3,500
ステーキ ディナー¥2,500
ビーフ フォンデュー¥2,000

営業時間 A M7:30—P M10:00

神戸市生田区波止場町1番地(中突堤)
TEL 神戸 (078) 351-2151(大代表)

青い町

楠本 憲吉
え・南 和好

神戸坂がち 白いネックの神父に逢い

憲吉

青い海の見える町、青い山を背負った町、青い
並木のそよぐ町、神戸は、まさに『青い町』、青
春の町、私の青春がそこにいまも息づいている町
だといえよう。

神戸はよく横浜と比較されるが、私は、神戸は
ヨーロッパ、横浜はアメリカ、そんな違いがある
ような気がしないでもない。

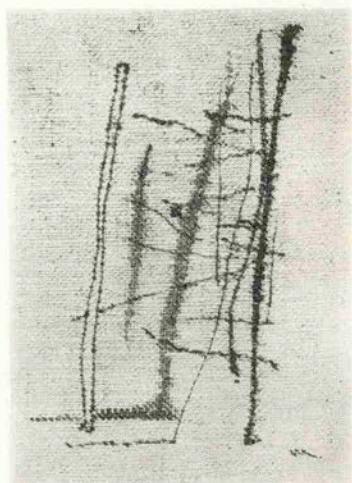
そういうふた神戸と横浜の違いは、この二つの町
に住んだ外人の種類の相違であろうか。政治的な
用務で日本に住んだ外人の多い横浜に対して、人々
と直接のかかわりあいを持った商目的の外人の
多い神戸、このことが案外、両市の性格に何らか
の影響力をもつたような気もする。

はじめて、ひとりで洋画——フランス映画「歴

史は夜作られる」を見たのも神戸三宮劇場であつた。中学二年のときで、当時、中学生は父兄のつきそいなしに観劇観映は許されず、補導連盟（通称ホーレン）というこわいおっさんの監視下にあつたのである。

はじめてバーへ行つたのも山手の加納町のバーであつた。当時のバーはママもホステスも学生を実際に大切してくれた。料金は学割だし、こまごまと身辺の面倒まで見てくれた。私が学徒動員で入隊したとき、最初にモンペ姿で面会にやつてきたのは、そこのバーの女の子たちであった。もつともあとで女の子たちの素性がバレて、面会が終わつてから古年次兵からすごく気合をかけられたが……。

入隊中も、外出があると神戸の町へ出かけた。トーアロード、三の宮界隈、元町通り、新開地と、あてもなく歩いた。



終戦になつて、復員して、真先に神戸へ行つた。

まだ長靴をはき、戦斗帽に将校服のままであつた。

三宮駅をおりると、闇市からムツとする食料油の匂いがハナをついた。駅の階段をおりると、浮浪児が二人寄つて来て、長靴を磨かせてくれといつてケンカを始めた。客の争奪戦である。すると愚連隊のアンチャンが出てきて、

「兄さん、こんな小さい子ケンカさして、それでええんか」

といつてゆすられたりした。

芦屋に住むギターラという外国人と仲よくしていたことがあつた。何かのつき合いで顔を出したレコードコンサートで知り合つた男で、私より少々年上だつた。その男から、逃げた奥さんを迎えた。宝殿は山陽本線の小駅で、姫路の少し手前

「石の宝殿」といわれる石材の産地である。秋雨の降る日であつた。空襲で焼けたホームの屋根の雨洩りが激しかつた。来る列車も来る列車も復員兵と買出し部隊で超満員、とても乗れるものではなかつた。ほんやりホームから再度山の方を眺めていると、薄桃色に煙が立ちはじめた。六甲名物の山火事である。

やつと乗つた列車で石の宝殿へ行き、バスで何駅か乗つて、奥さんの実家へ行つたが、両親が出てきてケンもほろろに面会を断わつた。激しいことばづかいであつた――。

サデリンという外国人がいた。もとトルコのレスラーだつたが、GHQ物資の闇屋をやつていた人づてに彼と知り合つて、私はサデリンから洋モクやカンヅメ、ウイスキー、洋服生地をわけて

貰つて、それを売り歩き、小づかいにしていた。

ある晩、サデリンと、バクダンというひどい焼酎を痛飲し、終電車に乗りおくれ、山手のサデリンの家に泊つた。応接間のソファに寝かされたが、夜中に目を覚ますと何かナマあたたかいものが私のそばに寝ている。手を伸ばすとざらりと粗い毛の感触があつた。私がぎよつとして体を起すと、それはウーッと鳴るではないか。サデリンの銅ついたシェバードであつた。不意の闇入者に自分の髪を奪われて、仕方なく私に添寝をしていたのである。

神戸へ行けば、そんなとりとめもない思い出か、次々に鮮やかによみがえつてくる。

さて、今年も押しつまり、師走の月がやつてきた。

「師走」は僧侶のことで、年來の仏事に、あつちこつちで僧を迎えたがるので、僧はあつちこつちへ走り廻るところから出たもの。

今年のクリスマスを私は神戸で迎えることになつてゐる。神戸在住の俳人諸卿と、神戸らしいクリスマス句会をやろうではないかということで招待を受けている次第――。

私はその日の来るのが今から楽しみでならない

天にオリオン 地には我等の足音のみ



アンナの街

依田 義賢
え・鄭 相和

アンナの街に、雪は降っているだろうか。アンナの街の広場に、椿の花は咲いだらうか。

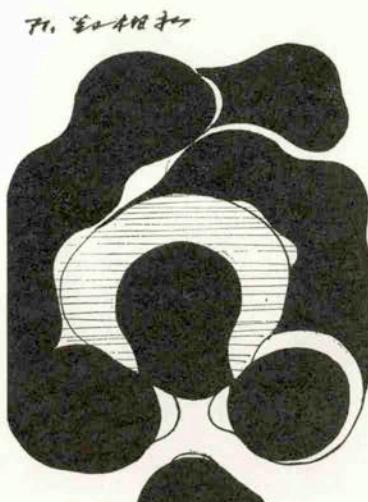
人を愛することしか知らない、やさしい善良な姉は、晩年に、息子のすすめるままに、カトリックの信者になつて、永い間、脳軟化症で、病臥していたが、やさしい息子たちの夫婦の看護をうけて、死んだ。寒い冬の、芦屋川畔の教会で、寒い風の強い日に、葬儀があげられた。

姉は小さい時から、神戸の、祖父の家にやられて育ち、琴が上手であった。その琴を、生田町の外人もインド人の奥さんも、ほめてくれたのが、自慢だった。姉は貿易商につとめる、人の後妻に稼いだ。賢い先妻の男の子を姉はわが子のように、愛した。わが子も出来た。恐しい、出水が、六甲山から、くだりおちる時、本山の留守宅は濁

流の渦に、二階の屋根だけになつてとりかこまれ、煙突にすがつて、助かったこともあつた。先妻のいい子は、学校を出て、勤めるようになると、戦争に行って死んだ。それで夫はぐつと老けて、いく年もたたぬ間に死んだ。それから後家の苦労が続いたが、姉は善良に、にこにこして、苦労にたえた。司教は、アンナの経歴をのべ、聖歌隊の歌声と、蠟燭の灯のきらめきの中で、アンナの棺は花にうずめられ、それから、風の強い山上の火葬所で、焼かれた。なんの鳥かしらないが、しきりに、銳い声をあげて、啼いていた。

三回忌に、墓をつくつたので、納骨することになり、私夫婦と兄が京都から來た。教会で、納骨式をあげ、縁者一同が墓地に向つた。

墓地は、神戸の町のはずれのいい所だというだ



けで、なにも知らされなかつた。地下鉄の工事や、海中の埋立アーランドの工事や、さかんな事業がすすめられている神戸である。その町のはずれまで来て、鶴越の墓園とあつたか、靈園とあつたかそんな角柱を見たけれども、自動車はそれから、眺望の美しい、山地の舗装道路をのぼつて行くと、私は、墓地へゆくとは思えなかつた。高原の温泉地へでも、遊楽にゆくドライブのように思えた。のぼるにつれて、神戸の港が見えた。外国船がならんでいた。それから、ビルの並ぶ街も、見下ろされた。すいぶん山地をのぼり、奥深くすんだと思う頃に、一群の墓の一郭が望まれたが、そこは一区域だけで、またその奥の、小高みに、さらにまた次の谷あいに、また丘に、といふ風に、広い、国道に沿つて、次々と開発された团地のように、墓の街があつた。

私たちの自動車が入つた、その一廓は椿の園と名づけてあつたようだ。他にも、そのように、山茶花や桜や梅の園などがあつたのだろう。そこへゆけば、その園の名の花だけが植えられることになるのだ。そうして、その親のような大木の植えられたところは、この墓園の人口近い広場であるようだ。神戸市が整地して市内の寺々から、ここに墓を移して、いくばくもないということであつた。

墓碑の間をゆくと、それはさながら、すばらしい開発の進んだ、ビルの街であった。ただその街のビルには、窓がなかつた。そして生きているものは、花と虫だけであつた。寒い風が通りぬけ、人影はなかつた。そこに、洋風のアンナの墓碑は横たわつていた。いちばん苦労だった戦後、よく

流行つた、「港の見える丘」という歌をうたつて泣くことを忘れていたアンナには、ふさわしい、丘の墓の街のようであつた。

この街は、外人墓地のように、みんな同じ、造型で、ファンタジックな歌のある豊かな感じはなく、仏教と混合で、不揃ろいでも、死んでも、世帯の苦労の堪えないような、冷たく乾いた、味氣ない、花やみどりの少い都会であつた。

ああ、アンナ、あなたは、こんなところでも、ごくたのしく、人よく眠つてることだらうな。個性的なものが、地に花のようにならう。花が金属や造花になつてしまつて、モダンな外国製のものが蕭洒な装飾になつて貼りつけられたり、かかけられたり、塗られたり彩られたりする、インターナショナルな流行のディスプレイの街。海はあるけれども、なぜか遠いその丘に、白い夏の、書籍の陳列棚のような街があることを、友よ、知つてゐるだらうか。

ああ、アンナの街に、椿の花よ、早くおいしげり、咲きみちてくれ。青い海だけでは、あまりに寒い。それまで、年月がかかるなら、冬には、しきりに雪が降りつもつてくれ。窓のない、石のビルの街には、まつ白い雪でも、物語のようになつたかい。アンナの街に、雪よ、降れ、雪よ、降り積め。

（大阪芸大教授）



神戸のハイカラさ

え・鄭 マサコ

え・鄭 相和

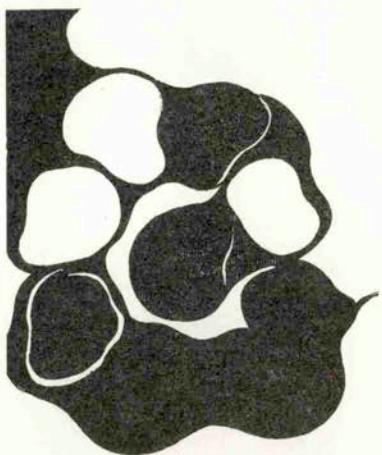
戦後、二年目くらいに、神戸をちょっと通過した時のことです。

元町を歩いてみて、がらんとした、まるで空き家のようなどころになっていたのにはびっくりしてしまいました。

その次、神戸へ、また、ちょっと寄ったのが昨年で、この間がバカに永すぎて、いつたいどうしていったのかなと、今も、思っていますが、すっかり、きれいな元町になっていました。

それにしても、ほんとに人が増えましたね神戸も。

これは、日本国中、どこの街へ行つても感じることで、ここだけのことではないのですが、三宮あたりの混雑は、やはり、大へんなものだと思い



ア・マサコ

あれは、切り口が乾いていたや駄目ですかからね

夕方なんか、世界各国の人たちが、ゆったりした足どりで散歩していました。

何しろ、三十年もたつてしまったので、私の方の感じ方も、すこし違ってきたかもしませんが

「これ、神戸で買ったのよ」

「アラ、これ、すてきね」

「神戸よ」

と、こういった時には、ほんとに、そこには神戸の匂いがありました。

大阪にも、東京にもない、それは「ハイカラさ」という匂いでした。

つまり、神戸とは、そういうところだったのです。

神戸は、貿易港だから、何でも、新しいものが、いの一番に入ってくるからでしょうか。新しいもの、流行の魁、モダーンなもの、というだけなら、東京にも大阪にも、大いにありますよ。

京都のような古めかしいところにさえ、一部には非常にモダーンな面もみられるのです。しかし、何か「ちょっと、ハイカラなものを買いたい」といつて、京都へ出かける人があるでしょ

うか。

とすると、ハイカラとは、決して、新しいもの、最近流行のもの、というのではなくさうです

では、いったい何なのでしょうか。

「これがハイカラです」とは、今ここで一口に

は説明しにくいのですが、しかし、皆さんも、よく「これ、ハイカラね」とか「この色、きれいだけど、ハイカラさのない色ね」などと、日常語と

して使つていらっしゃるところをみると、ちゃんと

と解つていられるのです。

実際に、はつきりといい切ることができるくらいみんなによく理解できていることなのです。

神戸のハイカラさは、その伝統からきていくと思います。

明治の開港以来、居留地の異国人たちの生活から、しらずしらずのうちに学び、同化してしまったハイカラさ。

それが、他には真似のできない神戸の特質であり、個性となってしまっているのでしょう。

ハイカラなどといふものは、今日や昨日、できだ新興都市に存在する筈のないものということができます。

「江戸好み」といえば、粹なこと。

「巴里風」といえば、その精神はシックです。

みな、永いながら伝統の上に育つてきた人々の心意気のようなものであつて、そして、それはわれわれの郷愁にもつながっています。

着るものであれ、家具であれ、神戸の作品は、この舶来ものの伝統を基礎にしたオリジナルでなければ、

「これ神戸よ」

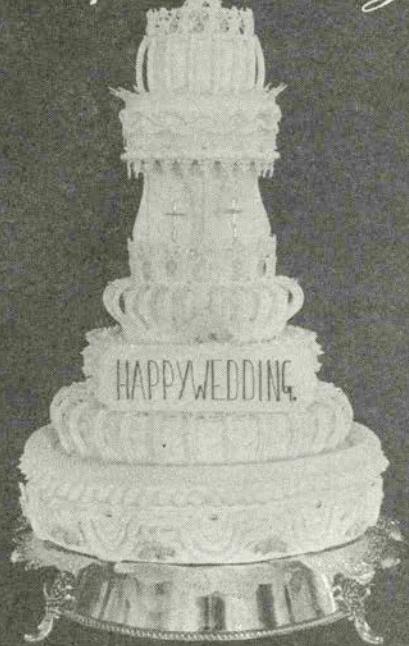
と自慢しにくいのです。

ほんとに今は、どこにでも、何でもありますからね。

これから、落ちつきをとり戻した神戸をたのしみにしていますわ。



Happy Wedding



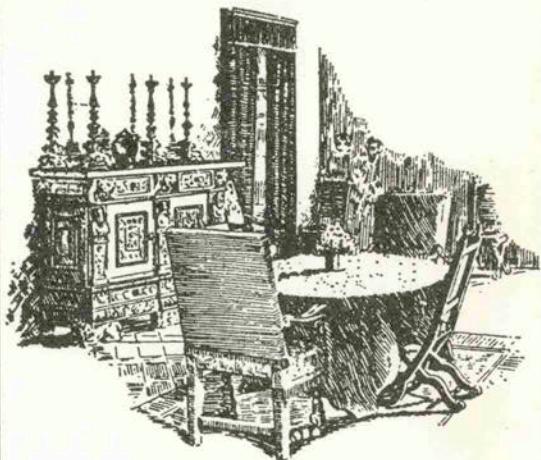
北欧の銘菓

ユーハイム・コンフェクト



■本社・工場 神戸市兵庫区熊内町1 (市立美術館東隣) TEL 221-1164
■三宮センター店 神戸三宮センター街(洋菓子・喫茶・レストラン) TEL 331-2421
■さんちか店 神戸三宮地下街スイーツタウン TEL 391-3558

家具・室内装飾・工芸品



永田良介商店

神戸市生田区三宮町3丁目大丸前 TEL 神戸神戸(391)3737
(代表)

東京店・東急百貨店(日本橋店内6階 TEL 03(221)0511
(本店(渋谷)7階 TEL 03(462)3180

工場 神戸市垂水区多聞町小東山975-35
神戸木工センター TEL (078) 706-5005 (代)

経済と文化の調和を

榎並 正一 〈バンドー化学株取締役社長〉

南部 圭三 〈光印刷株取締役社長〉

南部 昨年、「阪東調帶」という難しい名前から「バン

ドー化学」というわかりやすく具体的な名前に変えられたわけですが、名前を変えられてこういう点がよかつた

ということがございましたか。

榎並 私のところは調帶も大いにやつてゐるんですが、最近それ以外の物が増えてきましたので、それを社会的に



榎並 正一氏

も認識してもらいたいというわけです。

「バンドー」というのは65年前に阪東直三郎という方の、技術を基盤にしてできた会社です。その阪東さんは自分で造られたベルトの事故でなくなられました。殉職されたわけです。そういうような因縁を我々もっていますので、「バンドー」というのは単なる人名じゃなくて、技術というもののシンボライズしたものなので、社名にもバンドーといふのは抜かさないようにしているわけです。

南部 そうしますと、阪東さんが最初に調帶を開発され、した後に発展していくんですね。

榎並 そうです。それで調帶という言葉は現在では現実性が欠けているのですが、私としては長い間の郷愁もありますのではなくて、苦労しました(笑) ところで光印刷さんの方はいかがですか。

南部 私の方の会社は、最初昭和23年に神戸に創立しました、昭和32年東京に進出、本社を現在の西宮に移したのが39年です。仕事の内容は美術印刷、特殊印刷、それにパッケージ関係が多いのですが、最近はコンピューターシステムによる写真製版にも力を入れています。私は常々うちの社員に「ヒューマン・プリントイング」ということをいってるんです。すなわち「印刷物に生命を与える」ということですが、これは大変大切なことでうちの経営理念でもあるわけです。

★ハブニングの多かった一九七一年

南部 71年はいろいろな問題がでてきて大変な年でしたね。

榎並 しかしそういった問題というのは、急に今年になって出てきたわけじゃなくて、みんな以前からあったものの形の上で文句をつけて、いろいろといはじめたのが71年だったというわけですよ。しかいろいろとございましたね(笑)。

南部 明日は何が起るかわからないといった、ハブニ

ングが多かったですね。

榎並 なくなつた河野一郎さんがおっしゃつたが、どんな時でも、どの時代の人でも、自分の今の時代が一番難しい時代だと思うそうですね(笑) あんなこともあります。こんなものもあると思ってボヤいているが、いつの時代でもそんなんであつて、逆にいえば皆がそれだけいろんな問題に关心をもつているということはいいことなんで、俺だけが天下の不幸を一人でしょつたみたいな顔するな、ということですね(笑)。

南部 そういう点からいえば、71年にいろんな問題が出来たということは、みんながそれに关心をもつたという点で出ないよりはよかつたわけですね。

榎並 そうですね。みんなが关心をもつて、その解決

のスタートを切つたということではよかつたといえる。そのきっかけをつくったという点で、ニクソンさんに礼状出したらどうですかね(笑) ただこれを解決するの大変でしようが(笑) 終局の一歩手前になつて気がつくよりは、早目に気づいて手を打つておいた方がいい。だから71年は決して悪い年だったと私は思いませんね。

南部 山積みする問題を一つ一つ解決していくのは確かにしんどいことですが、今までが余りにも安閑としすぎてましたからね。

榎並 元禄ボケしてたんですよ(笑)

南部 今までのままではこらあかんぞ、ということでいい刺激にはなつたでしよう。やはりそういうことは必要なことですね。そういう問題がなければ、そんなもんだということですんでいくわけなんですが。

榎並 だから、スタートという意味からいって、これにおびえず、いやがらず、すなおに受けてそれに対処していくことです。

★経済と文化の調和の時代へ

榎並 今、ヨーロッパから帰ってきたばかりの証券会社



南部 圭三氏

三つ、四つ、五つにもなつてくると手におえなくなつてくる。ごはんにたとえると、一杯、二杯、三杯ぐらいまではおいしく食べられるが、五杯、十杯となつてると食べる方も困つてくる。企業の方も「自分の使命は作ることにあり」というんで、つくることだけに専念してきた。それが今度はそれが、どんな結果を及ぼすかという問題にもなつてきたわけです。ある面では公害の問題にもなり、またある一面では、そのエネルギーをもつと違つた形で有効に使おうといふことで文化の意味にもなつてくるんじやないですか。もともとはそれが本来の姿ですからね。ただそれが一時的に物質優先ということとで本末顛倒してたんですよ。だからやつと本来の姿にもどろうとしておる

のある人の話を聞いてきたんですが、その人の話による

南部 それは公害の問題などでですか。
と向うの人は「ノルマ1枚でもう買わな」らしい
いるらしいんです（笑）

なくて物の使い方をもつと考えろ、と『うことじゃないですか。人間らしい使い方をしろといふことと思います。

事実、今まで公害関係にしても後のことを考へないで

供給サイドのことばかり考えてたでしよう。作る方だけじゃなくて、使う方もそれだけしか考えてなかつた。そのへんのひずみがでてきてるともいえますね。

南部 結局、人間が物をつくつて、その作つた物の處理

で困ってるわけですね。

戦後の物のない時代には、作ることだけを考えて、

がむしやらに作つておればよかつたし、使う方も一つや二つだつたらちよど使いやすかつた。しかし、それが

南部 人によつて、こういう分け方をされる方があります。つまり、人類の歴史を、文化以前と文化時代と文化以後とに分ける。現在は文化時代と文化以後の分れめに当るわけで、「文化以前」というのは人間が狩猟をして暮していた時代ですが、「文化時代」に入ると人間は物をつくる事をおぼえたわけです。そして物を一生懸命つくって、人間らしい生活ができるようだんだんなつてきた。ところが今は作った物で苦労する時代で、それが「文化以後」だというわけです。

文明オンラインという時代から次のスペクトクルに入ってきた。ですから、いろいろな意味での万博というものが一つの転機になつたようですね。

榎並 見本市なら一種の物質文明だけの展示会ですが、

文明オンラインといふ時代から次のスペクトクルに入ってきた。ですから、いろいろな意味での万博といふものが一つの転機になったようですね。

榎並 見本市なら一種の物質文明だけの展示会ですが、万博は世界の文化を集めてのフェスティバルだったからこそ、あれだけの人も集つたのでしよう。経済的なものはどこにでもついてまわりますが、それだけじゃなくて文化といふものをもつと考えなあかんぞ、ということで

やはり万博は一つの転機でしたね。経済と文化の調和ということことで、本来の姿にもどったわけです。

南部 「人類の進歩と調和」というのもそういう意味でしよう。

榎並 そうですね。「調和」ということになると、少くとも複数の物がなくてはいけませんから。今まででは物質的なものに片よりすぎていって、もう一方を考えなさぎてた。

南部 またしかし、考えてみればそこまでの余裕がなかったということもいえますね。多少物質的にも豊かになつて、初めて足元をみたらどうもこれは具合が悪いし実際にには一番大きな問題としてとりあげられるようになつた。

榎並 ことにそれが人間の健康とか生命にかかわるようになつてきたので、「公害」という形で問題になつた。しかし「公害」という言葉は世界中になくて「水の害」とか「空気による害」とか、そういう言葉はあるけれどもどれもこれもひつくるめいう言葉はないそうです(笑)

南部 「公害対策」といっても内容によつてみな違いますからね。

榎並 公害といつても、ある量が少い時は、同じ物があつてもむしろ重宝がられたわけです。ヘドロしかりであつて、酒屋さんに聞きましたが、米の白い洗い水が少し流れてた頃は魚が寄ってきて喜こばれてた。先程のめの話と同じで、それが十倍、二十倍になつてくと「公害」ということで問題になつてくる。ほどほどというのを越えるからいがんのとちがいますか(笑)

★神戸の特殊性を生かした発展を

榎並 神戸の特長の一つは、もともと港街であったこともあるんでしようが、外部の人とのつながりが多く、人の往来も多かつた。国籍でいつたら神戸が日本で一番多いでしょう。外国人の人たちでも自然にとけこめる土地柄

なんですね。そういう「受け入れやすさ」という神戸の特長を上手に生かした形の発展というものが期待されままでしよう。土地は狭いし、経済力は弱い。物質面からいえばあまりいいところないので、一時浅田さんの時代にいわれた「学術都市」というイメージも生まれてくる。神戸人はがめつくなきから、金もうけもへただし、また金を使わせるということも上手でない。

南部 別に経済的にリーダーになる必要もないですしね人口の増減でその都市の斜陽化をうんぬんいう人もありますが、そうじやなくてむしろ人口はそんなに増やさなくて都市の発展を考える方がいい。

榎並 形の問題じゃなくて住みやすさですよ。花や緑だとうのものいいが、それだけじゃなくて、幸い神戸は気候もいいから、そこにみんなが快適に住めるようにするにはどうすればいいかをもつと考へてみたい。大型都市の悪いとこばかりを見習うようなことはしないで、中型都市としての充実性と、それもデコデコのものじゃなくて神戸らしいものをね。

南部 やはり神戸の人が求めているのはそういう事じやないです。

榎並 それ以外に道ないでしよう。

南部 この前も不動産屋が、工場はもう全然ダメですよつていつてました(笑)

榎並 だから、我々もいかにしてここから出ていくかの問題ですよ。今の工場街が、今いつた神戸の特長をもつた何かの形に変つていくことを、我々のような工場人自身を含めてみな思つてはいるんじやないですか。

南部 将来は次第にそういう方向に変つていくでしようね。

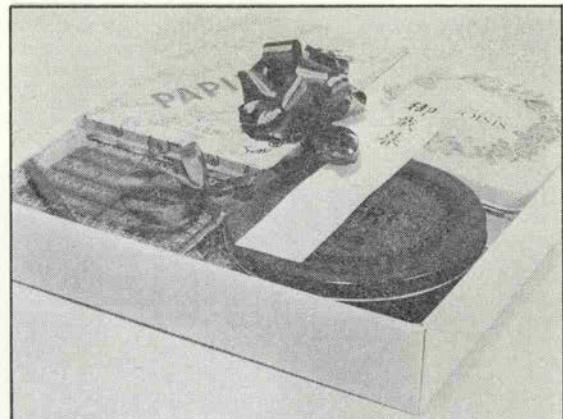
榎並 橋をつくつたり、道路をつくつたり、物質的なものは一番変えやすいですが、人間的な、自然的な特長というものはそう変るもんじやない。いい意味でも悪い意味でもそれは変わりにくいのですから、その特長を大切にして生かした方向での神戸の発展を考えたいものです。



北村真珠店

元町通2丁目60 TEL. 331-0072

37



お歳暮

ご贈答好適品

ゴーフル

¥ 400 ~ 3,000 ¥ 100 ~ 300

マロングラッセ

¥ 600 ~ 5,000

銘菓詰合せセット

¥ 1,000 ~ 5,000

神戸にそだって70年

夙月堂

元町3丁目 TEL 391-2412 ~ 5

さんちか・スイーツタウン TEL 391-3455

MERRY CHRISTMAS

めくるめく
男の気品を

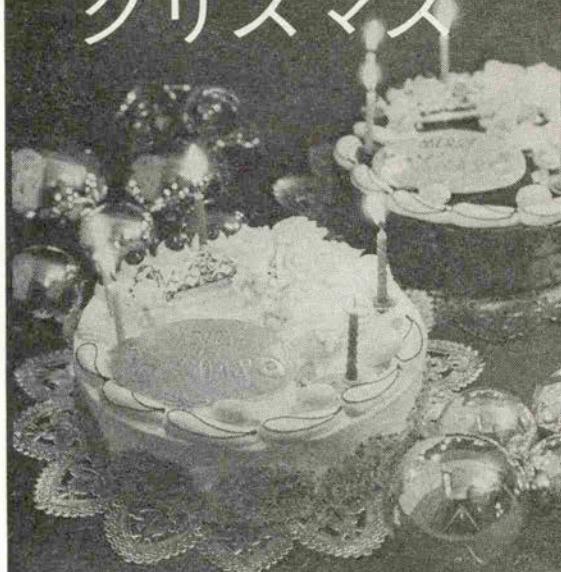


O-SHIBATA

柴田音吉洋服店

神戸・元町4丁目南 神戸341-0693
大阪・高麗橋2丁目 大阪231-2106

メリー
クリスマス



●クリスマスデコレーションケーキ
予約受承ります



北欧の銘菓

ユーハイム・コンフェクト

■本社・工場 神戸市真合区熊内町1(市立美術館東隣) TEL 221-1164

■三宮センター店 神戸三宮センター街(洋菓子・喫茶・レストラン) TEL 331-2421

■さんちか店 神戸三宮地下街スイーツタウン TEL 391-3558